

谷川岳・雪上講習会レポート

期 日：1月31日（日）
場 所：谷川岳西黒尾根
講 師：奥菌プロガイド
主 催：さいたま市山岳連盟・遭難対策委員会
参加者：28名
報告者：正田

前夜発で夜9時に谷川岳立体駐車場6階に到着する。寝床を確保し、9時半から自販機前のテーブルで、宴会を開始する。10時過ぎに石倉さんと奥菌講師他のグループが到着し、宴会に参加を頂く。

翌朝は6階ロビー7:00に集合し、役員の皆様から挨拶があり、西黒尾根へ向けて出発する。指導センターの横から輪カンを履き、樹林帯の雪面を鉄塔に向け各自でラッセルをしながら登攀する。下部は所々で腰までも埋まるところもあり、苦勞する。鉄塔で休憩を取り、ハーネス等の準備をして、訓練の場所まで移動する。鉄塔からは樹林帯の中を暫く登り、南側の開けた斜面を訓練場所と定めて、各山岳会毎にザックを置き、奥菌講師を中心に最初の課題内容を聴き、準備を開始する。各自二名でアンザイレンをして、雪面でのコンテでの登攀、支点を作り、半マストでのスタカットでの登攀の練習をする。

- ① ポイント 登攀中（斜登行）のアイゼンは山側のアイゼンは進行方向より少し谷川に向けた方が、雪面にフラットに置きやすい。
- ② ポイント コンテのロープの距離（間隔）は約2m位であり、張って置く。どちらかが滑ると、大声で知らせる。転倒と瞬時に停める。
- ③ コンテは半マストで確保する。（道具がいない）

昼食はおでんにする。

午後は、雪庇を踏み抜く事故を想定に、確保、支点作り、メインロープの固定引き上げ等を実施する。その後、雪面でのビレー点の取り方を実施する。ピッケル、スノーバー、デッドマン、土嚢等の活用方法を実践する。

①午後の反省点として、救出時の作業は加重が掛かるので、あせってしまい、スリング等の取り外しやセットに焦ってしまい、絡まったりする。今回雪面での支点作成やセット順番・フローができたので、次回は行動面でも、その辺を良理解し、スリングの取り出す順番等も良くシュミレーションして行う必要がある。

②今回利用した結び目は自分では理解しており、実行できたが、いつでも出来る様に、各自で反復して練習し、できることが望ましい。

有意義な一日であった。

以上